

2021 年 度 事 業 報 告 書

特定非営利活動法人 地球のステージ

1 事業の成果

- ① 映像と音楽を組み合わせた国際理解教育プログラム「地球のステージ」シリーズの開催
- ② 「地球のステージ」に関する情報提供、交流事業等の実施
- ⑥ 「地球のステージ」シリーズに関連するCD、絵はがきなどの有償提供

● 地球のステージ実施事業

- ・ 国際理解教育プログラム「地球のステージ」の年間実績は、新型コロナウイルスの影響を受け53回となった。前年より17回増ではあったが、依然として回復には至っていないのが実情である。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全校生徒を体育館に入れられない、ホールの収容人数制限などの制約があり、生徒を2回3回に分け50～60分の公演を複数回行ったり、YouTube Liveでの配信に変えたりすることもあった。地域や学校規模によって希望が異なるため、臨機応変に対応した。
- ・ 中学校では会場での質疑応答、高校や大学では希望者を募って交流会を行うケースが多く、少数ではあったが、希望に応じて質疑応答や交流会を開催することができた。

- ③ 医療、教育、職業訓練などを通しての国際支援事業
- ④ 途上国支援、自然災害時における救援活動への募金活動

● 東ティモール事業：

- ・ 4月、洪水により被害を受けた現地住民に対し、生活物資や衛生用品の支援を行なった。
- ・ 6月、ポータブル超音波装置を購入し、販売店の技術者より現地スタッフへの操作・点検指導をオンラインにて行なった。
- ・ 7月、エルメラ県の村長、集落長、郡保健センター長、県保健局職員らとステークホルダー会議を実施。
- ・ 7月から1月にかけて、事業開始時点のエルメラ県の母子保健状況を把握するため、フィールドでのベースライン調査を実施（ロックダウン中は中止）。前事業で育成したPSFの協力を受け、幼い子どもがいる親を対象としたアンケート調査やグループディスカッションを実施した。
- ・ 東ティモール保健省、東ティモール国立保健院、日本人専門家との協議を重ね、8月に超音波検査指導ガイドラインを策定、11月に保健省から承認。指導教材や研修カリキュラムなどについては、11月に国立保健院より承認を得て、正式に国で使えるものとなった。
- ・ 11月超音波検査研修を開催。エルメラ県の医師7名、助産師5名を対象に、産婦人科分野の検査について講義・実習を行った。
- ・ 11月から3月まで、超音波検査研修受講者の村での実地練習について、団体スタッフによるモニタリングを実施中。現地医療者からの質問については、日本人・東ティモール人双方の専門家からの指導・助言を受けている。
- ・ 5月、8月、9～10月に、保健省からの依頼を受け、エルメラ県における新型コロナウイルスワクチン接種キャンペーンへの支援を行なった（車両とドライバーの貸し出し）。
- ・ 12月、母子専用病棟が完成。保健省への引き渡しを行い、運用開始。
- ・ 12月から3月まで、日本人専門家による研修・指導を受けながら母親学級のガイドライ

ン及び教材を作成中。現地医療者やエルメラ県保健局、村の母親とも協議しながら作成を進めている。

- ・ 専門家及び本部スタッフの日本からの派遣については、1年次事業期間内では中止とした。
- ・ 2月、2年次事業を開始。本部とのオンライン会議により、現地スタッフの能力強化研修を実施。
- ・ 助産師育成プロジェクトとしては、新型コロナウイルス感染症拡大により授業進捗に遅れが生じ、予定していたカリキュラムより約半年遅れで授業を実施。2022年3月末現在、最終学年の第2学期（最終学期）を受講中。

● パレスチナ支援事業：

- ・ 提携団体施設の4階に心理社会的ケアセンターを設置。7月に完成し、利用開始した。
- ・ 9～12月の4回、桑山専門家が研修員向けオンラインセミナーを開催した。
- ・ プログラムと研修は全行程を終了することができた。2022年3月22日に最終発表会とセンター開館式を行い、出張中の桑山、後藤、中村が出席し確認を行った。
- ・ 5月の空爆で被災した施設は日本および現地での寄付金で修理を行うことができた。

● ミャンマー教育支援事業：

公式的には学校が再開したことになっているが、ミヤッセ・ミャー村の子どもたちはいまだ学校に通っていない状況に変化なし。民兵が銃を持って学校の前に待機しているため、親が現学校に通わせたくないという意向が強く、村の子どもたちのほとんど（1名のみ通学）が家の手伝いを行っている状況であった。

この状況下ではあるが、各家庭の経済状況も悪化していることより、昨年度の支援金はそれぞれに届けることを最優先とし、送金手段の確保を模索した。12月、PayForexを利用し送金可能となり、里子さんひとりひとりに、昨年分の支援金を手渡しすることができた。2021年度は送金の目処がたたなかったため、里親さんへの支援依頼はなしとした。

ネット環境がよくない中で時間はかかったが、3月末に各里子さんからのメッセージを写真付きで里親さんに送り、現状の報告ができた。

● その他海外事業

南スーダン難民の心のケアを目的としてウガンダ事業を立案したい旨を代表理事より理事会にて提案を行った。事業実施に向けて2022年初めより調査を行いたいこと、事業立案ならびに予算措置に関して説明し、出席理事6名全員の合意をもって承認となった。2022年1月に、企画立案のためにウガンダに渡航し、現地調査を実施した。また、活動にあたって、ウガンダ国へのNGO登録が必要な為、各機関と調整・交渉を実施した。

⑤ 自然災害時における救援活動に関する事業

● 東日本大震災復興支援事業：

- ・ 「閑上の記憶」に来館される方への対応や説明、閑上案内ガイド、語り部講話のプログラムを提供することができた。
- ・ 閑上中学校遺族会慰霊碑の管理を支援するとともに、定期的に遺族会を実施し、慰霊碑周りの清掃や管理、たがいに語り合うことによる心の整理を促す機会を提供することができた。
- ・ 岩手、宮城にある伝承施設を訪問し、説明や思いを聞いたことで、より広い視点で

東日本大震災を捉え直す機会にもなり、案内ガイドや講話の内容のブラッシュアップにつなげ、ソフト面でのレベルアップを図り、集客力の向上につなげることができた。

- ・ 2021年7月1日、一般社団法人閉上の記憶を設立申請し、10月1日より新法人として独立して運営していくこととなった。引き続き東日本大震災の復興支援事業として運営資金等後方支援を行った。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

- ① 映像と音楽を組み合わせた国際理解教育プログラム「地球のステージ」シリーズの開催に関する事業
- ② 「地球のステージ」に関する情報提供、交流事業等の実施に関する事業
- ⑥ 「地球のステージ」シリーズに関する CD、絵葉書などの有償提供

● 地球のステージ公演事業

- ・ 事業内容 国際理解講座「地球のステージ」開催
- ・ 日時 通年
- ・ 場所 日本全国の学校体育館・ホールなど
オンライン形式による
- ・ 従事者人数 約3名（1公演）2名（マネジメントスタッフ）
- ・ 対象者 学校の生徒・教職員、一般参加者 約12,000人
- ・ 支出額 14,845,225 円

- ③ 医療・教育・職業訓練などを通しての国際支援事業
- ⑤ 途上国支援、自然災害時における救援活動への募金活動

● 東ティモール支援事業

- ・ 事業内容 医療アクセスの悪い山岳地帯のエルメラ県で、多くの女性と子供が質の高い母子保健サービスが利用できるようになることを目指し、専用病棟の建設、医療者への超音波診断器を使った妊産婦検診指導、母子手帳の有効活用、母親学級の改善、母子や女性の健康に関する住民への啓発活動に取り組む。
また、助産師育成事業にも取り組む。
- ・ 日時 2021年4月1日～2022年3月31日（N連事業/継続）
2021年4月1日～2022年3月31日（助産師育成事業）
- ・ 場所 東ティモール民主共和国 エルメラ県全52村
- ・ 従事者人員 日本人スタッフ3名、東ティモールスタッフ8名、
- ・ 対象者 直接裨益者：訳3,000人（エルメラ県の医療従事者、県保健局役人、
村長、対象妊産婦）
間接裨益者：約14万人（エルメラ県全医療従事者及び住民）
助産士学校学生 1名
- ・ 支出額 59,536,179 円

● パレスチナ支援事業

- ・ 内容 ガザ地区における危険地帯居住児童に対する心理社会的ケア事業
2021年5月の空爆被害に対する緊急支援

- ・日時 2021年4月1日～2021年3月31日（N連事業/継続）
2021年5月～2021年10月（緊急支援）
- ・場所 ガザ地区 ①ラファ市
- ・従事者人員 日本人スタッフ3名、現地スタッフ10名、
- ・対象者 直接裨益者：約500人（ガザ地区ケアクラス対象者、普及活動参加者）
間接裨益者：約5,700人（直接裨益者の家族・知人、事業外研修の受講者）
- ・支出額 33,871,982 円

● ミャンマー里親学資支援事業

- ・内容 ミャンマー中部ミャッセ・ミャー村の中学・高校に通う生徒の就学支援
- ・日時 2020年4月1日～2021年3月31日（継続）
- ・場所 ミャンマー国 シャン州 ミャッセ・ミャー村
- ・従事者人員 日本人スタッフ2名、現地スタッフ2名
- ・対象者 中学生 Grade8：12名 Grade9：11名
高校生 Grade10：13名、Grade11：7名 計43名
- ・支出額 1,174,728 円

● 南スーダン難民支援事業（立ち上げ調査）

- ・内容 ウガンダ国において、南スーダン難民の心のケアを目的とした事業立案の為の調査。NGO登録に関する各機関との調整業務。
- ・日時 2021年12月1日～2021年3月31日（継続）
- ・場所 ウガンダ北部ユンベ県南スーダン難民ホストコミュニティ地区およびビディビディ難民居住区
- ・従事者人員 日本人スタッフ3名、現地スタッフ1名
- ・支出額 1,780,127 円

④ 自然災害時における救援活動に関する事業

● 東日本大震災復興支援事業

- ・内容 津波復興祈念資料館「閑上の記憶」の運営ならびに被災者支援。
- ・日時 2020年4月1日～2021年3月31日
- ・場所 宮城県名取市閑上、出張語り部は各依頼者の設定地
- ・従事者人員 フルタイムスタッフ2名、パートタイムスタッフ6名
- ・裨益者数 「閑上の記憶」来館者 3,896人
案内ガイド 78回実施、1,920人参加
語り部講話 5回実施、28人参加
出張語り部講演会 3回開催
オンライン語り部 4回実施
- ・支出額 5,386,955 円